

山梨大学 留学生 センターニュース



留学生受け入れと異文化交流

医学部留学生委員会・委員長
医学部人体病理学講座 加藤 良平 教授

海外にあっては、さまざまな国際情勢の変化の中で日本という国の立ち位置が変わり、大学間での国際交流がますます多様化し、交流そのもののありようも以前に比較して大きく変化してきたように思えます。

こうした内外の変化を踏まえ、山梨大学大学院博士課程（医学系）では、今年度から私費留学生特別支援制度を新設し、国外からの私費留学生の生活を支援することになりました。医学部留学生委員会としては、この支援制度を通じて、本学の大学院充足率を向上させるために、本年の9月に中国を訪れ、福建医科大学との間に姉妹校協定を結び、さらにこれまで交流があった5大学を訪れ、さらなる交流に向けて意見を交わしてきました。

とにかく、1週間で、省が異なる5つの大学を回るのですから、朝早くから夜遅くまでスケジュールが詰まっていて、少し疲れました。しかし、それぞれの大学との交流を通じて思うことは、お互いの立場、人種、文化の違いを理解することがいかに大切かということです。

私自身、以前に2度ほど英国に留学した経験があります（1回目はウェールズのウェールズ医科大学、2回目はイングランドのケンブリッジ大学）。実際、そこで生活してみると、文化や風習の違いに戸惑うことが何度もありました。もちろん、大学の研究室のシステムも日本とは全く異なります。それでも、周りの方々にとても暖かいまなざしで見ていただき、色々と親切にいただいたことが、今では良い思い出になっています。現在は留学生を受け入れるという逆の立場ですが、その時の経験を生かして、出来る限り留学生たちの面倒を見たいと思っています。

最後に、山梨大学に来られる留学生たちには、学問とともに日本の文化、風習を学び、日本と留学生の母国との間のより深い異文化交流にもつなげていただければ幸いです。



学生の声

海外留学体験記

「留学」= “Improving one's English” ?

教育人間科学部 国際共生社会コース 4年
工藤 大輝

私は約9ヶ月間交換留学生として、オックスフォード・ブルックス大学へ留学しました。その間、非常に多くのことを学んできました。そのすべてをここに述べることはできないので、「留学」について少し紹介したいと思います。

皆さんは「留学」という言葉を聞いて何を連想しますか？私は帰国後、多くの人から「英語はもうペラペラ？」といったような質問を受けました。実際、多くの人が留学＝語学研修、といったイメージを持っているのではないのでしょうか。ここで少し昔を振り返ってみたいと思います。日本の近代の歴史において、初めて海外へ「留学」したのは、福沢諭吉や岩倉使節団です。彼らは言葉を学びに海を渡ったのでしょうか？答えは“No”です。彼らは、外の世界にある未知の文化に直接触れる機会を求め、日本を旅立ちました。その後、彼らが近現代の日本の発展に大きな影響を与えたことは言うまでもないことです。このような留学の目的は、現代においても非常に有意義なものであると思います。ここで私が伝えたいのは、「留学」とは単に外国語を学びに行くのではなく、未知の文化に直に触れ、客観的に母国を見つめる機会でもあるということです。

イギリスに旅立つ前の私は、正直に言って、日本という国に愛着が持てませんでした。しかし、9ヶ月間イギリスという異文化の中で過ごすことによって、客観的に日本という国を見つめる機会を得、帰国した今では、誰よりも日本を愛する“Patriot（愛国者）”であると自負しています。私が変わったきっかけは大きく2つあります。1つは、単純に他の文化の中に長期間身を置いたことにより、自国の文化の良さに気づいたこと。もう1つは、東日本大震災です。日本を未曾有の大災害が襲ったあの日、私はオックスフォードにいました。世界中のメディアが母国の惨事を伝える中で、私たち在外の日本人は何ができるのであろうと考え、募金活動を行いました。その活動の中で、地球の反対側であるにもかかわらず、本当に多くの人々が日本という国を応援し、愛してくれているという事実が胸が熱くなりました。日本は世界中から愛されていることを直接肌で感じ、私は日本人であることを心より誇りに思えるようになりました。

留学生活を通じ、もちろん英語力も大きく向上しました。しかし、帰国した今、一番強く感じることは、日本という国に生まれ、日本人で良かったということです。今、私は日本という国をもっと良くしていきたい、この国のために働きたいと思うようになり、その夢に向かって歩き出しています。

「留学」は、新たな角度から自分自身を、そして自分の環境を見つめ直す絶好の機会です。多くの人に、若い間に世界を見て、広い視野を身につけ、新たな自分の可能性に気づいてほしいと切に願っています。



チャリティマッチ（東日本大震災・募金活動の一環）

日本留学体験記

タイの留学生

—— **オラワン・フタコート、タナナン・ウイチッパシャ、ピラヤー・ノッパラット**
コンケン大学（タイ王国）より 1年間交換留学

日本へ来て6ヶ月がたち、日本の生活にもだんだん慣れてきました。甲府に来た最初の日、気候が涼しく、周りにはたくさんの山があり、きれいな町だという印象でした。また、富士山がよく見えました。初めて見たときは、とてもうれしかったです。しかも、来日した時はちょうど花見のシーズンで、桜がたくさん咲いていて、とてもきれいでした。このような体験をとおして、私たちは本当に日本へ来たのだと実感しました。



国語教育新歓合宿でチューターたちと

授業ではチューターからサポートしてもらったり、先生方にもお世話になっています。来日したばかりの頃は日本語でのコミュニケーションが難しかったです。時々、日本語を聞き取れず、意味が分からなかったり、わかったとしてもきちんと答えられないこともありました。楽しかったことは、山梨大学の他の留学生や日本人の学生といろいろな大学の活動に参加したことです。新歓合宿やさくらんぼ狩り、生け花、鼓童鑑賞会、花火大会などです。これらの活動のおかげで友達ができ、日本文化にもふれることができました。

日本の料理でよく食べているのは、カレーライスとラーメンです。味はタイ料理とは違っています。また、たこ焼きやお好み焼き、すしや刺身、てんぷらも食べてみました。どれもとてもおいしかったです。日本料理が好きになりました。いま私たちは山梨大学の国際交流会館に住んでいます。日々、会館のチューターと管理担当の方からアドバイスをもらい、会館の友達にもお世話になっています。特に印象に残っているのは、会館の庭にみんなで野菜を植え、それらを使って各自の国の料理を作って交換して食べたことです。帰国まであと6か月ですが、山梨大学でさまざまな体験をし、そこで得た経験を多くのタイ人たちに知ってもらいたいと思います。

現在、本学と大学・部局間協定を結んでいる大学は約30校あります。そのなかで、交換留学の制度があるのは、工藤大輝君【左ページ参照】が留学した英国オックスフォード・ブルックス大学（OBU）のほかに、ドイツのドレスデン工科大学、米国イースタン・ケンタッキー大学（EKU）、フランスのリヨン第三大学[※]、オーストラリアのシドニー工科大学、そして本年度から交流が始まったタイ王国コンケン大学があります。

また、語学留学として、夏季英語研修（EKUとOBU）、春季英語研修（カナダのブリティッシュ・コロンビア大学）もあります。

留学を考えている皆さんは、以下へご連絡下さい。

国際交流室（055-220-8373）、又は留学生センター奥村（055-220-8152）♪

※ リヨン第三大学への交換留学は教育人間科学部の学生に限ります。

留学生センターの取り組み

日本語・日本事情教育

■学部留学生対象 日本語・日本事情教育

学部留学生を対象とする日本語授業として、「初中級」、「中級」、「中上級」、「上級」の4レベル6科目が前期・後期ともに開講され、「演習（プレゼンテーション）」が前期に開講されています。また、日本人学生とともに日本の文化や社会についての理解を深める「日本事情」、異文化の理解と尊重を目標にした「異文化間コミュニケーション」の授業も開講されています。いずれの授業も、eラーニングを取り入れつつ、学習効果をより一層高めるよう努めています。

■日本語補講

本学に在籍する日本語能力が十分でない大学院留学生及び研究生などを対象に、日本語補講が開講されています。入門レベルから論文作成レベルまで幅広いクラスがあり、甲府キャンパス・医学部キャンパスともに提供されています。また、山梨大学に入学した入門レベルの受講生を対象とした、サバイバル・ジャパニーズ・テキストの英語版及び簡体字版を作成し、現在補講で使用しています。本テキストは2011年度中にweb上で公開する予定です。

留学生指導相談・文化交流

■留学生指導・相談

留学生相談室では、留学生の抱える様々な勉学や生活、人間関係、就職等に関する相談に対応しており、山梨大学の留学生は誰でも利用できます。また、留学生チューターや留学生に関わる教職員からの相談にも応じるとともに、連携を図り留学生の指導・支援にあたっています。留学生センターの各教員も、留学生や留学や国際交流に関心のある日本人学生の指導・支援を行っています。

日本語研修コース

日本語を集中的に学びたい大学院生、研究生、交換留学生を対象に2010年度後期には、日本語集中コースとして日本語研修コースⅠとⅡが開講されました。研修コースⅠは、来日前に日本語を学習したことがない、または日本語レベルが初級前半レベルの学生が対象ですが、最終的に9名が参加しました。一方、研修コースⅡは、日本語初級の後半から終了レベルの学生が対象のコースで、交換留学生を中心に8名が参加しました。これらのコースの授業最終日の翌日、合同の成果発表を行いました。発表では、それぞれの興味・関心のあるテーマについて、インタビューやアンケート、または資料収集の調査を行い、日本語でパワーポイントを使った発表を行いました。鋭い質問にも自分のことばで堂々と答える受講生の姿に、コースで培われた力と自信が感じられました。



2010年度後期修了式

日本・山梨文化体験と行事の数々

■昇仙峡もみじ狩り (2010年11月21日)

秋には色鮮やかな紅葉に彩られる美しい渓谷を誇る山梨昇仙峡へ、交換留学生、大学院生を中心とする27名がもみじ狩りに出かけました。昇仙峡には、覚円峰、仙娥滝、石門、長潭橋など、自然の雄大さを体感できる名所が満載で、また遊歩道では、新鮮な空気をたっぷり吸いながら、オットセイ石やラクダ石などの珍しい岩を楽しむことができ、いい散策の一日となりました。



■餅つき地域交流会 (2010年12月4日)

甲府国際交流会館がある岩窪地区の住民の方々と留学生との親睦を図る交流会が、会館庭先で行われました。岩窪地区の方の指導と音頭の下、留学生が代わる代わる杵を振るい、つくたてのお餅を餡子やきな粉、大根おろしに絡めて、皆美味しそうに頬張っていました。留学生からは、中国、ベトナム、マレーシア、オーストラリア、ドイツ、ウズベキスタン、イギリス、ネパール、インドネシアの料理が提供され、作った留学生と食する地域の方との間で、作り方や各国の食生活に関する話が、あちらこちらでやり取りされていました。最後は、地域の岩窪音頭を和太鼓の音色に合わせて皆で輪になって踊りました。お互いに地域の住民として、共に住みやすい町にしていけることを願っています。



■やまなし留学生スピーチコンテスト (2010年11月28日)

今年もやまなし留学生スピーチコンテストが、山梨大学赤レンガ館で開催されました。山梨の各大学から、中国、韓国、ベトナム等の留学生の有志が応募し、体験談を交えてスピーチを披露しました。今年のテーマは「固定観念」で、制限時間内に内容の濃いスピーチが揃いました。コンテスト終了後は、交流パーティが開かれ、日本人と留学生の間で親交が深められました。



■学長主催 留学生懇談会 (2010年12月16日)

前田秀一郎学長主催の留学生懇談会が、甲府キャンパス大学会館で開催され、留学生や教員、県内国際交流関係の来賓の方々など、約200名の参加がありました。参加者たちは、心のこもったスピーチ、歌や楽器の披露などを通して、交流を深めました。最後に「やまなし留学生スピーチコンテスト」の受賞者の紹介も行われ、見事二度目のコンテスト優勝を果たした本学大学院教育学研究科の袁芳さんの栄誉が讃えられました。



■和太鼓体験ワークショップ (2010年12月20日)

山梨の地域で活躍中の和太鼓集団「なりゆき太鼓」「三宅太鼓」「げんばら太鼓」メンバーの皆さんが来学くださり、和太鼓体験ワークショップが行われました。力強い躍動感あふれる演奏を鑑賞した後、バチの握り方、構え方とリズムの取り方の簡単な指導を受け、実際に全身を使って紡がれる振音を楽しみました。時に力強く、時にしなやかに、時に繊細に、と変容する和太鼓の魅力を存分に味わえ、参加者は爽快感あふれる表情でした。



■日本酒酒蔵見学 (2011年2月13日)

山梨と言えばワインというイメージが強く、意外と知られていないのが山梨県産の日本酒の数々。良質な水源があることから、白州地域にはいくつかの醸造所があるのですが、今回留学生7名とともに訪れたのは「山梨銘醸」。日本酒がお好きな方なら、「七賢」の名を聞いたことがあるかもしれません。原料である米に対するこだわりや、日本酒の醸造工程に関する説明を杜氏から伺い、酒蔵をゆっくりと見学してから、約30種の利き酒をしました。供されていた酒類の中には、この時期限定の蔵出しの新酒や山梨特産の桃のストレート果汁を加えたリキュール類もあり、最後には足元がふらつく学生もいました。

■外国人留学生等研究発表会 (2011年3月9日)

医学部臨床講義棟小講義室において、留学生の研究発表会が開催されました。発表した学生は、大学院修士及び博士課程の学生で、所属は工学領域が3名、教育領域が2名、医学領域が6名の11名でした。出身国は中国（9名）、マレーシア（1名）、ベトナム（1名）でしたが、流暢な日本語や英語で研究成果を発表し、質疑応答も活発に行われました。留学生たちの発表する姿からは自信に満ちた様子がうかがえました。研究科を越えた研究発表の場ということもあり、終了後の懇談会も含めてお互いの具体的な研究内容を改めて知る機会となりました。

■鼓動観賞会 (2011年5月21日)

国際的な舞台でも活躍する伝統芸能集団「鼓童」が甲府の地にやって来ました。鼓童の舞台は、和太鼓を中心とし、歌や踊りなどを織り交ぜながら、日本の伝統芸能を現代に蘇らせるものです。しかし、何といっても見せ場は、直径5メートルはあると思われる巨大な宮太鼓から次々に鳴り響いてくる太鼓のリズムです。留学生たちはからだを揺らしながら、腹の底まで響く太鼓のリズムを楽しんでいる様子でした。日本の伝統芸能と現代音楽の出会いをこころゆくまで楽しんだ夏の宵でした。



■ホーム・ステイ／ホーム・ビジット (2011年6月18日～19日)

21名の留学生が15組の家庭を訪問し、1泊2日ないし日帰りで地域の人々との交流を楽しみました。留学生を受け入れたホストファミリーからは「一緒にご飯を作って楽しかった」「留学生が明るく積極的で、コミュニケーションがとれた」、参加した留学生からは「和食がおいしかった」「初めて日本人の生活が見られてよかった」「ファミリーが中国が好きで感動した」などの感想が寄せられ、有意義な一時を過ごせたようです。今後も、より多くの留学生や地域のご家庭が参加しやすいよう、工夫に努めたいと思っています。

■華道体験（2011年7月19日）

本年度も本学の華道部の雨宮先生と華道部員の皆様のご厚意とご協力により、留学生の華道体験が実現しました。部屋のスペースの都合上、参加募集人数は15名でしたが、あっという間にその人数に達してしまいました。留学生の間で人気の行事となっているようです。参加した留学生の国籍は、中国、ベトナム、タイ、ドイツ、イギリスと国際色豊かで、雨宮先生や華道部員の学生さんも、様々な国の留学生と接することができて喜んでいらっしゃいました。



■書道体験（2011年7月14日）

教育人間科学部国語教育講座の宮澤正明先生とゼミ生のご協力を得て、留学生8名が書道を体験しました。道具の持ち方や書くときの姿勢、基本的な筆遣いについて学んだ後、それぞれイメージする「心」の文字を書き、自由な発想の「心」が並びました。書を楽しんで欲しいとおっしゃる宮澤先生のご指導の下、最後は自分の書きたい字を選び、果敢に複雑な字に挑戦。思いをこめて仕上げた作品にそれぞれ大満足の様子でした。大切に自国に持ち帰り、額に収め、自分の部屋に飾りたいという学生の声も聞かれました。



■たべもの異文化交流会（2011年8月24日）

留学生と地域の交流や食を通して異文化への理解を深めることを目的とした「たべもの異文化交流会」が、今年も医学部キャンパス国際交流会館で開催されました。中央市長をはじめ地域の方々、留学生、大学の教職員約300人の参加がありました。留学生の母国の自慢料理、日本の味覚を楽しむだけでなく、大正琴、餅つき、盆踊りと楽しい交流が繰り広げられました。



■実地見学旅行（2011年9月8日～9日）

留学生総勢40名で、1泊2日の京都見学旅行に行ってきました。1日目は世界遺産にも登録される清水寺を参拝し、二条城の鶯張りを体験しました。夜はおいしい食事に舌鼓をうち、偶然にも京舞妓にも出会えました。2日目の朝は、無線七宝という釉薬を素材にした美しい焼物作りに挑戦し、それぞれ思い出に残るアクセサリを製作しました。最後は国宝鹿苑寺金閣。留学生たちはあまりに豪華な佇まいに驚きながら、京都の歴史と文化を堪能していました。



2011年度（平成23年度）後期 時間割

	月	火	水	木	金
I 8:45～ 10:15				初中級ⅡB（江崎） 研修Ⅱ（江崎）	研修Ⅱ（長阪）
II 10:30～ 12:00	初中級ⅡA（奥村） 研修Ⅱ（奥村） 中上級Ⅱ（仲本） 研修Ⅰ（江崎）	研修Ⅰ（長阪） 研修Ⅱ（二宮）	日本事情Ⅱ（二宮） 中級ⅡA（仲本） 研修Ⅱ（岡部）	研修Ⅰ（奥村） OH（江崎）	研修Ⅰ（井上） 研修Ⅱ（長阪）
III 13:00～ 14:30	研修Ⅰ（江崎） 研修Ⅱ（奥村） OH（仲本）	研修Ⅰ（長阪） 研修Ⅱ（二宮）	研修Ⅱ（岡部）	研修Ⅰ（奥村）	中級ⅡB（長阪） 研修Ⅰ（井上）
IV 14:45～ 16:15	研修Ⅰ（江崎） OH（奥村）	研修Ⅰ（江崎）		研修Ⅰ（奥村）	研修Ⅰ（井上）
V 16:30～ 18:00		異文化（奥村） 上級Ⅱ（江崎） 甲府・補講B（長阪） 甲府・補講C（長阪） OH（高田谷）			
VI 18:15～ 19:45			医学部・補講 A（長阪）C（岡部） 18:00～19:30		
VI 以降	医学部・補講E （高田谷） 19:00～20:30		医学部・補講 B（二宮）D（岡部） 19:30～21:00		

※ 12月5日から一部の科目で担当教員が変わります。
金曜日の医学部補講は、全て水曜日に開講しています。（同時間帯）

OH：オフィス・アワー

留学生 センター 教員



奥村 圭子
kokumura@
yamanashi.ac.jp
055-220-8152



高田谷 久美子
kumikot@
yamanashi.ac.jp
055-273-8289



仲本 康一郎
knakamoto@
yamanashi.ac.jp
055-220-8272



伊藤 孝恵
takei@
yamanashi.ac.jp
055-220-8753



江崎 哲也
esakit@
yamanashi.ac.jp
055-220-8752

山梨大学留学生センター

〒400-8510 山梨県甲府市武田4-4-37 TEL 055-220-8047/8373
MAIL yu-study-abroad@yamanashi.ac.jp

山梨大学 留学生センターニュース 2011年10月発行